

令和3年度より使用する
文京区立中学校教科用図書について

令和3年度使用文京区立中学校教科用図書審議会

答 申

国語

国語科の目標は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することである。

東京書籍は、「言葉の力」の欄に何を学ぶのか、どのような力を身に付けるのかが分かりやすく書かれている。文法についての説明や論文の書き方、根拠の述べ方について詳しく示されている。文章の読み方について比較検討しながら読むという姿勢が一貫しており「批判的に読む」ことや「情報リテラシー」の指導に生かすことができるようになっている。

三省堂は、「読み方を学ぼう」では、国語科だけでなく他教科や社会生活で活用できる思考の方法が示されており、読み方を理解してから読むという構成になっている。話し合い活動やメモの取り方、プレゼンテーションに関わる事項などコミュニケーション能力の育成に関わる内容が充実している。巻末の語彙表や漢字辞典等が見やすくまとめられている。

教育出版は、単元の始めに「学びナビ」があり、教材の学び方を示している。生徒が見通しをもって学習に取り組める構成になっている。説明的文章では、多種多様なテーマを取り上げており、生徒が現代課題に触れる機会として活用できるようになっている。情報の関係を整理し、表現するときに役立つ語彙や表現を具体的な文型で提示している。

光村図書は、1年次の始めに、「話す・聞く」領域の基本スキルが示されており、3年間を通して活用できる力を指導する構成になっている。古文の単元では、文の横に現代語訳を示しており、原文を読みながら意味を理解することにつなげることができるようになっている。巻末の「思考のレッスン」等で学習内容を一覧したり、学び方について振り返ったりすることができるようになっている。

書 写

書写に関する事項においては、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要となる。特に、我が国の伝統的な文字文化を継承し、これからの社会に役立つ様々な文字文化に関する「知識及び技能」について理解し、文字を効果的に書くことができる力を育成することが大切である。

東京書籍は、「書写のかぎ」の欄に文字を正しく書くためのポイントを一覧で示し、確かめながら学習を進める構成になっている。筆遣いを真上から撮影した動画を見ることができるようになっている。新聞や手紙、ポスター、リーフレットを書く際に書写の学びを生かすことができるように「書写活用ブック」を巻末に設定している。

三省堂は、見開き2ページで1単位時間を構成しており、学習目標を示すとともに、振り返りの欄を設定している。書き方のポイントを図と言葉で表しており、正しい文字の形や書き方の理解につながるようになっている。楷書と行書の比較ができるように二つの文字を並べて示している。

教育出版は、見開き2ページを毛筆と硬筆の内容で構成しており、硬筆で書く際のポイントを示すなど、関連付けを図る内容になっている。本の帯、ポップの作成など読書活動と関連付けて指導することができるようになっている。「情報の扱い方」の内容があり、国語の「書くこと」と関連付けている。

光村図書は、「書写ブック」との分冊になっており、硬筆用ノートとして活用することができるようになっている。ユニバーサルデザイン書体についてのコラムがあり、見る人に配慮することについて触れている。手紙を書く際の留意点が示されており、学んだことを日常生活に生かすことができるようになっている。

社 会〔地理的分野〕

地理的分野の目標は、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することである。

東京書籍は、見開きに網羅された本文、画像、グラフ等の資料の大きさやレイアウトが適切であると考えられる。单元ごとや節末に読み物資料「スキルアップ」や「地理にアクセス」、まとめとして地図を活用した課題が設定されており、興味を引き出したり、学習を振り返らせたりすることができると考えられる。見開きの末部分に、「チェック」「トライ」など課題が豊富に設定され、主体的に知識・理解、思考力・判断力・表現力を伸ばし育んだり、探究させたりする学習活動に取り組みさせることができると考えられる。

教育出版は、見開きに網羅された本文、画像、グラフ等の資料の大きさやレイアウトが適切であると考えられる。单元ごとや節末に読み物資料「地理の窓」や「地理の技」、まとめとして地図を活用した課題が設定されており、興味を引き出したり、学習を振り返らせたりすることができると考えられる。巻末に課題解決型の設定もある。見開きの右下部分に「確認」「表現」が設定され、主体的に知識・理解、思考力・判断力・表現力の伸長を図る学習活動に取り組みさせることができると考えられる。

帝国書院は、見開きに網羅された本文、画像、グラフ等の資料の大きさやレイアウトが色づかいを含めて適切であると考えられる。各グラフの特徴については、1 ページに丁寧にまとめられており、生徒が振り返る際に効果的である。読み物資料として「地域の在り方を考える」「技能をみがく」「声」「未来に向けて」などが掲載されており、観点ごとの学習に取り組みさせる際に効果が期待できるようになっている。防災に関する内容では、鎌倉のハザードマップをはじめとして身近な題材を取り上げているので、興味・関心をひくと考えられる。

日本文教出版は、見開きに網羅された本文、画像、グラフ等の資料の大きさが適切であると考えられる。各グラフの特徴を1 ページに丁寧にまとめており、生徒が振り返る際に効果的であると考えられる。本文の末に「深めよう」や「確認」等が設定され、学んだことを深めさせる配慮が見受けられる。また、防災に関する内容が他社より多く掲載されており、生徒が学ぶ際に理解が深まると考えられる。

社 会〔歴史的分野〕

歴史的分野の目標は、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することである。

東京書籍は、見開きに網羅された本文、画像等の資料の大きさ、色合いも含めレイアウトが適切であると考えられる。本文冒頭に「学習課題」が示され、項の終わりの「チェック」「トライ」とリンクさせて、学習を深めさせる意図が感じられる。また、時代区分や年代の読み取り方など1ページに見やすくまとめてあり、歴史を学ぶ導入時に扱いやすいと考えられる。各ページに年表があり、生徒がどの時代を学習しているのか理解しやすいように工夫されている。

教育出版は、見開きに網羅された本文、画像等の資料の大きさ、レイアウトが適切であると考えられる。表題の脇に「学習課題」、その上に学習する時期が示されており、文末の「確認」「表現」とリンクさせて、学習を深めさせる意図が感じられる。各ページに年表があり、生徒がどの時代を学習しているのか理解しやすいように工夫されている。

帝国書院は、見開きに網羅された本文、画像等の資料の大きさ、色合いも含めレイアウトが適切であると考えられる。本文冒頭に「学習課題」が示され、項の終わりの「説明しよう」とリンクさせて、学習を深めさせる意図が感じられる。時代区分や年代の読み取り方など丁寧に説明されており、歴史を学ぶ導入時に扱いやすいと考えられる。各ページに年表があり、生徒がどの時代を学習しているのか理解しやすいように工夫されている。

山川出版は、見開きに網羅された本文が詳細で量が多く、歴史に興味・関心が高い生徒にとっては良いと考えられる。画像等の資料の大きさは、他と比べてやや小さい。文は常体で書かれており、文字が小さい。本文冒頭に「学習課題」が示され、項の終わりの「ステップアップ」で学習を深めさせる意図が感じられる。各章の冒頭にある年表で、写真資料とともに日本と世界の関わりについて触れられている。

日本文教出版は、見開きに網羅された本文、画像等の資料の大きさ、レイアウトが適切であると考えられる。本文冒頭に「学習課題」「見方・考え方」が示され、項の終わりの「深めよう」「確認」とリンクさせて、学習を深めさせる意

図が感じられる。各ページに年表があり、生徒がどの時代を学習しているのか理解をしやすいうように工夫されている。

育鵬社は、見開きに網羅された本文、画像等の資料の大きさ、レイアウトが適切であると考えられる。本文冒頭に「学習課題」が示され、項の終わりに学習内容を振り返る設定がある。章末に「なでしこ日本史」として歴史的事象に関連が深い女性をとり上げたトピックがある。また、巻末の年表で日本と世界の「おもなできごと」について触れている。学習者用デジタル教科書の発行予定はない。

学び舎は、画像等の資料の端が別の資料と重なっており、体裁が他社のものより大判で最も大きくなっている。年代や時代の区切りを学習する際に、時代区分を本州、北海道、沖縄と3つに分けて示している。本文冒頭に単元で学ぶねらいが示されている。巻頭と巻末の裏表紙に「歴史地図」、巻末に12ページにわたる年表を配している。学習者用デジタル教科書の発行予定はない。

社 会〔公民的分野〕

公民的分野の目標は、現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することである。

東京書籍は、画像、イラスト、グラフ等の資料が大きく、本文とのレイアウトも見やすく配置されている。「基本的人権の尊重」の部分では、平等権や新しい人権を丁寧にとり上げている。また、経済について詳細に触れており、生徒が経済を初めて学ぶ際に理解しやすいように工夫されている。見開きごとに学習する課題が示されているとともに、単元末に「チェック」「トライ」を設定し、生徒が主体的に学習に取り組める設定がある。

教育出版は、画像、イラスト、グラフ等の資料が大きく、本文とのレイアウトも見やすく配置されている。SDGs に巻頭で触れてから、現代社会の諸課題に入っており、関連のあるページにも表示で分かるようにしている。また、「18歳選挙権」を小単元で扱うとともに、平等権や新しい人権を丁寧に取り上げている。見開きごとに学習する課題が示されている。

帝国書院は、画像、イラスト、グラフ等の資料が大きく、本文とのレイアウトも見やすく配置されている。平等権、差別に関する不当性にスペースを割いている。見開きごとに「学習課題」が示され、「確認しよう」「説明しよう」で主体的に学習したり、思考を深めたりできる設定になっている。また、各ページ下に小学校の学習内容や地理や歴史的分野との関連について表示し、分かるように配慮されている。

日本文教出版は、画像、イラスト、グラフ等の資料が適切に配置されている。実物の点字を活用する課題が設定されており、生徒の関心を高める効果が期待できると考えられる。領土問題については、自国の問題だけでなく、他国での解決した事例について掲載している。見開きごとに「学習の課題」「見方・考え方」「確認」「深めよう」が設定されており、生徒が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。

自由社は、見開きのレイアウトで、図やグラフ等はあるが、空白が多く見られる。「基本的人権の尊重」の学習では、義務に触れてから権利を学ぶ構成になっている。国旗・国家に関する学習では、日本だけでなく他の国家の歌詞の訳

を掲載している。見開きごとに学習する課題が示され、課題も設定されている。学習者用デジタル教科書の発行予定はない。

育鵬社は、図やグラフ等が見やすくレイアウトされている。「基本的人権の尊重」の学習では、義務に触れてから権利を学ぶ構成になっている。国旗・国家に関する学習では、敬意の表し方や日本だけでなく他の国家の歌詞の訳を記載している。見開きごとに学習する課題が示され、単元末に課題を設定し、生徒に主体的に取り組ませようとする意図が感じられる。日本国憲法のまとめの学習で、憲法改正について議論する内容を扱っている。学習者用デジタル教科書の発行予定はない。

社 会〔地図〕

社会科の目標は、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を養うことである。

教科用図書「地図」については、地図の読図や作図、景観写真の読み取り、地域に関する情報の収集や処理などの地理的技能を身に付ける際に、十分に活用することが求められる。

東京書籍は、画像等の資料のレイアウトは、適切な印象を受ける。始まりの数ページで世界の諸課題について紹介されており、生徒の興味・関心を高めるように配慮されている。図書のサイズは、社会科3分野の教科用図書の標準的なサイズと同一である。歴史的分野の学習でも活用できる資料選定が見受けられ、歴史的分野と関連した学習が期待できると考えられる。

帝国書院は、学習活動をはじめ導入の際に、活用できる画像やイラスト等が豊富で、「活用の仕方」の説明も丁寧であり、生徒の興味・関心を高めるように構成されている。地図が立体的で、地域や地形の概要を把握しやすくなっている。また、資料図の種類が豊富であり、必要な資料を探して調べる学習において効果が期待できると考えられる。グラフや表のデザインが工夫されており、色遣いも見やすい。索引に掲載されている地名等が豊富である。

数 学

数学科の目標は、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指すことである。

東京書籍は、問題解決的な学習の流れが示されており、協働的な学習活動を展開しやすい構成になっている。各学年の巻頭には「ノートづくり方」の欄があり「数学マイノート」の欄とともに思考過程を記述する方法について学習することができると考えられる。索引は用語を示すだけでなく、式や図を併せて示すことで、視覚的に理解できるように配慮されている。

大日本図書は、「数の性質」の説明問題が豊富で、丁寧に解説されており、自然に学習を深められる構成になっている。数学の学びを生かした職業のコラムがあり、社会の中で活用される数学に触れるなど、キャリア教育を意識した内容が示されている。作図の導入が漫画や写真を用いた興味深い内容となっており、点と点の距離や直角が作る角などの説明・演習が詳しく示されている。

学校図書は、各学年の巻頭でノートの使い方についての説明があり、ノートの基礎・基本を指導できる構成になっている。「数と計算」領域において、計算力を高める問題が設定されており、十分な計算量が確保できるため、知識・技能の定着を図ることができると考えられる。巻末の「アイデアボード」は個人やグループの意見を書き込んだり、取り外して持ち運んだりすることができ、思考を深めることができると考えられる。

教育出版は、新しい章を学習する前に準備の問題が設定されており、系統性に沿って指導できる構成になっている。巻末に補充の問題が用意されており、演習量を補うことができるため、習熟の程度に応じて知識・技能の定着を図ることができると考えられる。索引には、数学用語の英語表記を併記するなど、教科横断的な学びについて配慮されている。

啓林館は、巻末の「自分から学ぼう編」は、問題解決学習、探究学習に生かせるテーマがあり、生徒が自ら学ぶことができる構成になっている。章末の問題は、小問題ごとに解説されており、生徒の理解度に合わせて振り返りを行うことができると考えられる。SDGsや防災教育に関する題材を扱っており、現代的な課題への取組について配慮されている。

数研出版は、各章の最初に「ふりかえり」のページが設けられており、既習事項の確認や新しい学習内容との関連付けができる構成になっている。生徒同士の会話を吹き出しにして考え方の手順を示しており、問題解決の過程を重視した流れになっている。発展的な内容を扱う「探究ノート」が分冊で付属しており、学びを深めるとともに、数学を活用する力を高めることができると考えられる。

日本文教出版は、小学校の学習内容の確認や中学校の学びとの関連付けを意識した構成になっている。各学年に3か所掲載されている「学び合おう」では、対話を用いて問題解決をする過程を示しており、生徒の対話を促すとともに、生徒が学び方を学ぶことができると考えられる。索引には、数学用語の英語表記を併記するなど、教科横断的な学びについて配慮されている。

理科

理科の目標は、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することである。

東京書籍は、生徒の主体性を高める問いかけや対話を広げる対話例、理科の見方を具体的に示したコラムなど、探究的な学習の流れが見える構成になっている。各ページに学習の流れを示しており、学習の見通しをもつことができると考えられる。アジアで初めての発見となったニホニウムを周期表だけでなくコラムとして取り上げている。縦長の A4 スリム版で、持ちやすく、視線の移動も少ない。

大日本図書は、問題発見から振り返りまでの学習の流れを示しており、生徒のキャラクターの会話場面をヒントに対話的な学びを促す構成になっている。実験場面に「注意」マークを記載し、安全面への注意喚起をしたり「基本操作」の欄で確実な知識・技能の定着を図ったりしている。キャリア教育に関連する職業の話題を取り上げるコラムがある。

学校図書は、できるようになりたい目標を「CAN-DO List」として3つの資質・能力で示しており、生徒が目標をもって取り組むことができる構成になっている。実験場面では、図や写真、グラフを用いて結果のどこに注目して考察するのかを例示するなど、詳しく説明されている。実験の際に予見できる危険場面に「ストップ」と赤字で示し、安全面への注意喚起をしている。

教育出版は、生徒のキャラクターの会話を参考にしたり、学習後の振り返り欄を活用したりすることで、主体的・対話的で深い学びの実現を図る構成になっている。「要点と重要用語の整理」が問題形式になっており、要点の整理がしやすいと考えられる。余白が十分にあり、写真や図、コラムが見やすく、側注を脚注に変更し縦方向のレイアウトになっている。

啓林館は、探 Q 実習や、探 Q 実験の過程で生徒の対話例が示されていて、探究のヒントをもとに探究的な学習を展開することができる構成になっている。学習と生活との関わりなどを取り上げ、日常生活や他教科との関連を図っている。図や写真が大きく鮮明に掲載されている。肉食動物と草食動物の比較が歯や顎の形、視野の範囲などにわたり詳細に示されている。

音 楽〔一般〕

音楽科の目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することである。

教育出版は、写真やイラストが多く、歌曲では歌詞のイメージ、器楽曲では各楽器の音色などのイメージをしやすい構成となっている。目次に「学びのユニット」として、「うたう」「つくる」「きく」という構成で学習のねらいが明確に示されており、生徒は見通しをもって学習を進めることができると考えられる。巻末に音符の読み方などに関する解説が詳しく説明されている。

教育芸術社は、楽典の内容や記号・用語が巻末の「音楽の約束」にまとめられており、分かりやすい構成となっている。巻頭口絵の資料に各界のプロフェッショナルの方からメッセージが寄せられており、親しみを感じる。「指揮をしてみよう」では、各学年の発達段階に応じたプロの指揮者からの解説が的確に示されており、合唱コンクールなどで参考にできると考えられる。

音 楽〔器楽〕

音楽科の目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することである。

教育出版は、和太鼓のかまえ方と打ち方の種類が多く掲載されており、生徒の興味・関心につながる構成となっている。箏の練習曲が複数あり、正しい奏法を学ぶことができると考えられる。ページの配置は、洋楽器と和楽器が和洋ミックスされた形で、管楽器、弦楽器というまとまりに配置されている。

教育芸術社は、リコーダーアンサンブルができる教材が豊富で、活用しやすい構成となっている。リコーダーの姿勢と構え方に悪い例のイラストも記載されており、得意でない生徒にとっても分かりやすい印象を受ける。箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八の5種類の和楽器についてバランスよく取り上げられている。

美術

美術科の目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指すことである。

開隆堂出版は、単元の目標が3観点で示されており、育成したい資質・能力を明確にしている。カリキュラム・マネジメントへの配慮として、ページの下部に他教科との関連について記述がある。ピクトグラムや安心・安全のデザインの内容があり、防災意識を高めたり、デザインを用いて情報を伝えたり、生活に役立てたりすることに関心を向けることができると考えられる。色の彩度を示す際に、黄色系統を用いている。

光村図書は、一つの題材の中で、「表現」と「鑑賞」を一体的に学ぶことができるように構成されている。生徒の学習の様子を写した写真や、生徒のスケッチなどが掲載されており、発想や構想の手掛かりにすることができると考えられる。ピクトグラムの扱いがあり、ユニバーサルデザインへ配慮がある。現代の漫画と古来の絵巻物との比較など、時代を超えた表現の技法について触れている。日本画や版画の掲載ページの紙質を変える工夫をしている。

日本文教出版は、1年生のガイダンスとしての内容では、小学校の図画工作との関連を意識したり、アニメを取り上げたりするなど、美術を身近に感じられる構成になっている。作品の写真が大きく掲載されており、見る側に強い印象を与える。ページ下部に道徳マークとそれに関連する言葉が示され、美術科の学びと道徳科を関連付けようとする工夫が感じられる。写真を大きく掲載しているが、やや大きすぎる印象を受ける。

保健体育

保健体育科の目標は、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することである。

東京書籍は、各項目「活用する」で対話的、「広げる」で主体的に考えることのできる構成になっており、深い学びを実現できると考えられる。章末問題では、現代の社会的課題に触れており、考えるきっかけを作りやすい印象を受ける。資料が充実し、コンテンツが豊富で使いやすいが、保健編の順番を意図的に学習指導要領と変えている。

大日本図書は、本文の説明が簡潔にまとめられており、「トピックス」の内容が興味を引き出すものになっている。イラストやデータグラフ、写真が多く分かりやすい印象を受ける。体育編と保健編の最後に「発展」的な内容を盛り込んでいる。表記も本文と資料が分かれており、整理されているが、章のまとめが Web サイトでの閲覧になっており、授業では活用しにくい。

大修館書店は、学習のまとめのページに振り返りチェックがあり、学習した内容を確認しやすくなっている。資料が豊富で読み取りやすく、話し合い活動に活用しやすい印象を受ける。「課題をつかむ」「まとめ」が具体的で答えやすいが、本文の量が多く、図・表が小さいため、読み取りにくく、他社と比較してやや見づらい印象を受ける。

学研教育みらいは、「考える・調べる」は常に資料と一緒に提示してあり、資料を基に考察できるので分かりやすく、理解が深まると考えられる。各項目において、「課題をつかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」という段階が分かりやすい印象を受ける。絵・写真等が多く、バランスもよく見やすい配置になっているが、コンテンツについては、他社と比較してやや少ない。

技術・家庭〔技術分野〕

技術分野の目標は、技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成を目指すことである。

東京書籍は、ガイダンスで問題解決をしながらどのように学習を進めていくかということについて触れている。「問題解決の評価・改善、修正」の欄があり、学習の振り返りと進捗について活用できると考えられる。工具の使い方を示す写真を大きく掲載したり、使い方に関する具体的な記述があったりするなど、安全面への配慮がなされている。

教育図書は、別冊の「技術ハンドブック」と併用することで、実習に関わる技術を補うように配慮されている。「スゴ技」、「技ビト」のコラムによって、学習内容と生活・社会・職業等に関連付ける構成になっている。各編の終末問題は、3つの観点に基づいており、生徒自身が資質・能力の育成について振り返りができる内容になっている。

開隆堂出版は、単元の導入で「やってみよう」「調べてみよう」を設定し、問題解決の土台をつくり、技術を使って問題解決をするという学習の流れになっている。「豆知識」「探究」などのコラムがあり、生徒の興味・関心を高める構成になっている。情報の扱いでは、コンピュータに関してシステムやソフトウェア等について詳しく説明されている。

技術・家庭〔家庭分野〕

家庭分野の目標は、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することである。

東京書籍は、実習の流れに合わせて写真や図が配列されており、視覚的に分かりやすい印象を受ける。実習例が豊富で、内容も短時間で取り組める題材から発展的に取り組む題材までが示されている。ページの中央側に説明の文章、外側に図や写真、補足説明等を配置し、関連付けて理解を深められるようにしている。また、ページの端に定規を配置するなど、様々な場面で活用し、工夫できるようになっている。

教育図書は、単元の冒頭に「自立度チェック」が設定され、自分の生活に学習内容を関連付けて考えるように工夫されている。章末のまとめは、新学習指導要領に示されている3つの資質・能力の視点で学習を振り返る構成になっている。実習では、学習したことを生かしてアレンジに挑戦する欄があり、応用したり、組み合わせたりして献立を立てることに取り組むことができるようになっている。

開隆堂出版は、説明の文を補完するように写真や図が配置されていたり、一日に必要な食物摂取量を表す写真が原寸大で示されていたりするなど、視覚的に訴える構成になっている。調理では、「調理方法 Q&A」が生徒の疑問に答える形で示されており、調理工程を理解しやすい印象を受ける。「豆知識」が各ページに示されており、学習内容を深められるように工夫されている。

外国語

外国語の目標は、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指すことである。

東京書籍は、概要から詳細の順に捉えていく文章の読み方を身に付けるとともに、自分の考えを深め、表現する力を育成する三段階読みの構成となっている。英語の視点で学ぶコーナーがあり、他教科で学んだ学習内容を英語で学習することができ、生徒の興味・関心を高めることができると考えられる。1年生の教科書には、生徒が小学校で慣れ親しんだ表現を使って活動できるように、小学校で学習した単語が各ページに掲載されている。

開隆堂は、英語の使用場面を漫画で導入する、文章の中で使用場面を再確認する、自分の言葉で表現するという順序になっており、基礎・基本の定着につながるように配慮されている。新しい場면을学習する際に、生徒にとって親しみやすい2コマ漫画やユーモアあふれるストーリー展開等、導入が工夫されている。理解力と表現力を高める「Retell」や伝え合う楽しさを味わう「interact」のページが用意されており、即興力の育成を高める構成となっている。

三省堂は、各レッスンの扉に、学びの見通しが示されており、学ぶ内容への動機付けができ、生徒が自ら学習の見通しを立てることができると考えられる。知識・技能を活用して、読むこと、書くこと、話すこと、書くことの活動ができるページが用意されており、生徒にとって分かりやすい構成となっている。読み物資料が充実しており、まとまった分量の文章を読むことで、文章の概要や要点を読み取る力を育てることができると考えられる。

教育出版は、代名詞や不規則動詞等の重要語句を覚えるためのマスキングシートや勉強や復習の仕方等を紹介するページがあり、生徒が自ら学ぶことができるように配慮されている。各レッスンの最後に「Review」「Task」「Grammar」のコーナーがあり、本文の内容や言語材料を重層的に理解する構成となっている。自分の音読回数を10本の印をつけて記録する場所が各ページにあり、生徒が意欲的に音読することができると考えられる。

光村図書は、親しみやすい漫画で使用場面を想像させたり、ページを折って音と単語をつなげたりする等、生徒の興味・関心を引き出せるように工夫されている。導入やまとめにも活用できる、各Unitのリテリングページが巻末に用意されており、生徒に即興で話す力を継続して身に付けさせる構成となっている。各Unitの扉ページに具体的な単元目標が示されており、この単元で「何ができるようになるか」が生徒にとって分かりやすく示されている。

啓林館は、各Unitのテーマ・内容に関連する情報が掲載されている資料集のようなページが用意されており、学習するテーマや内容が生徒にとって分かりやすい内容となっている。物語や落語等の楽しい読み物が巻末にまとまって配置されており、生徒の興味・関心を高めることができると考えられる。生徒の発達段階に応じた学習内容となっており、段階を追って無理なく学習できるシンプルな構成となっている。

特別の教科 道徳

道徳科の目標は、道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることである。

東京書籍は、多様な教材に触れることで、人間としての生き方を深く考えることができるよう構成されている。各教材に、つぶやき欄があり、考えたり思ったりしたことを書き込み、ペア学習やグループ学習等に活用できる。巻末には、ホワイトボード用紙や心情円などの教具が付属しており、気持ちを可視化し議論の際に有効であると考えられる。

教育出版は、一人一人が見通しをもって学び、道徳的価値に迫ることができるように構成されている。各教材に、「導入」「学びの道しるべ」が設定されており、学習の進め方が明確に示されている。全学年に、1時間毎の「授業の記録」を記入しておく欄が設けられており、自分のよさや成長への気付きに生かすことができると考えられる。

光村図書出版は、道徳の学びが深まるよう、1年間の学びを3つの「シーズン」に分け発達の段階を踏まえた構成となっている。また、学びを確かなものとするため、「深めたいむ」が準備され、自分事として考えることにつなげることができると考えられる。各教材には、発問の他に教材の内容に応じた「呼びかけ」が設けられており、考えを深めることに有効であると考えられる。

日本文教出版は、生徒が教材の内容を身近なこととして捉え、主体的に取り組めるよう構成されている。別冊の「道徳ノート」には、発問が記載されていないので、生徒の実態や授業展開に合わせて活用することができると考えられる。「プラットフォーム」は、学習内容を他教科との関連を意識して道徳的価値を深めることに有効であると考えられる。

学研教育みらいは、生徒の多様な考え方や感じ方を大切に、自己を見つめることができるよう構成されている。脚注に登場人物や出来事についての詳しい説明があり、生徒の教材理解につなげることができると考えられる。巻頭の「マイプロフィール」や巻末の「心の四季」では、学びを通して生徒が自らの成長への気付きにつなげることができると考えられる。

廣濟堂あかつきは、生徒が生き方について教師と共に考え、語り合うことができるよう構成されている。別冊の「道徳ノート」には、内容項目に合わせた教材や36時間分の「学習の記録」が準備されており、振り返りに活用できると考えられる。「thinking」や「特集ページ」には、教材と合わせて活用できる補助資料が掲載されており、学びを広げ深めることに有効であると考えられる。

日本教科書は、物事を広い視野からとらえ、話し合うことを通して、よりよい生き方について考えを深めることができるよう構成されている。内容項目順で教材が構成されているため、関連した内容をユニット学習として計画する際に活用できると考えられる。各教材には発問が準備されており、「考え議論する」授業展開に有効であると考えられる。